

◆ 今週のコメント

- RSウイルス感染症の定点当たり報告数が0.37で、過去4年平均値(0.05)に比べかなり多くなっており、第42週以降、報告数の多い状態が続いています。年齢階級別では、1歳が7例(46.7%)と最も多くなっています。
- 百日咳の報告が2例(ともに20歳以上)あり、第40週から連続しています。本年の累積報告数は、既に54例で、平成12年以降の年報告数(17～39例)と比べても最も多くなっています。また、年齢階級別割合では、20歳以上が31.5%(17例)と最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数が4.49で、やや多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

ありません。

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.49	184
	② 水痘	0.51	21
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	20
	④ 突発性発しん	0.41	17
	⑤ RSウイルス感染症	0.37	15
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

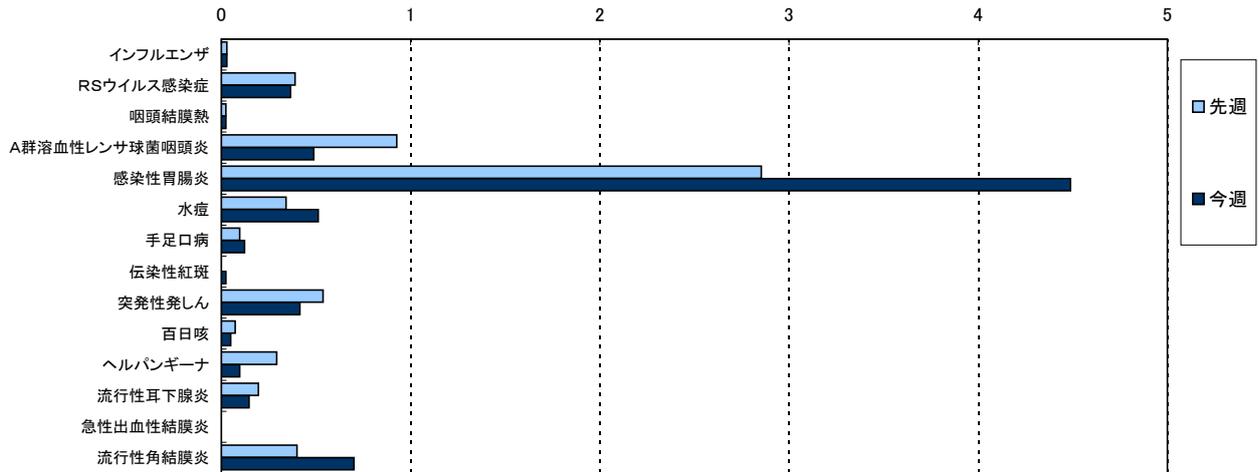
(注) 京都市のデータは、平成20年11月7日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

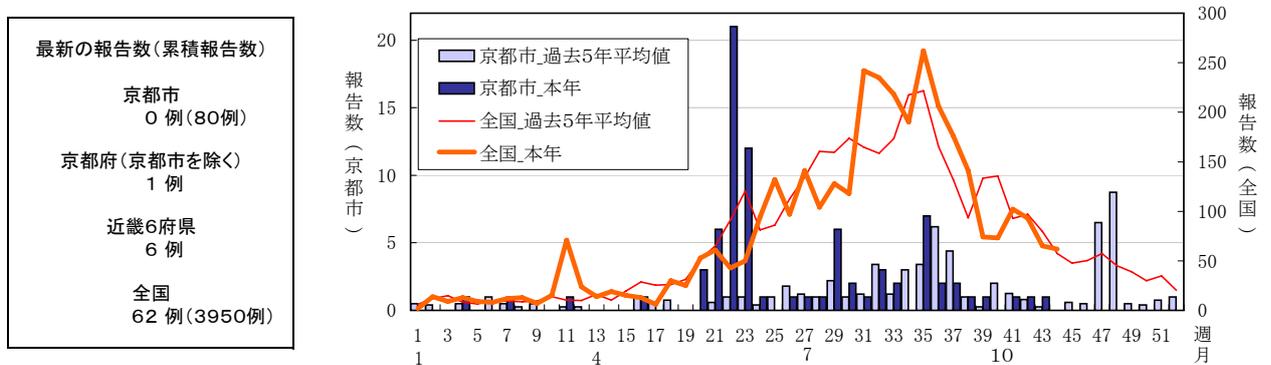
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第44週)と先週(第43週)の定点当たり報告数の比較

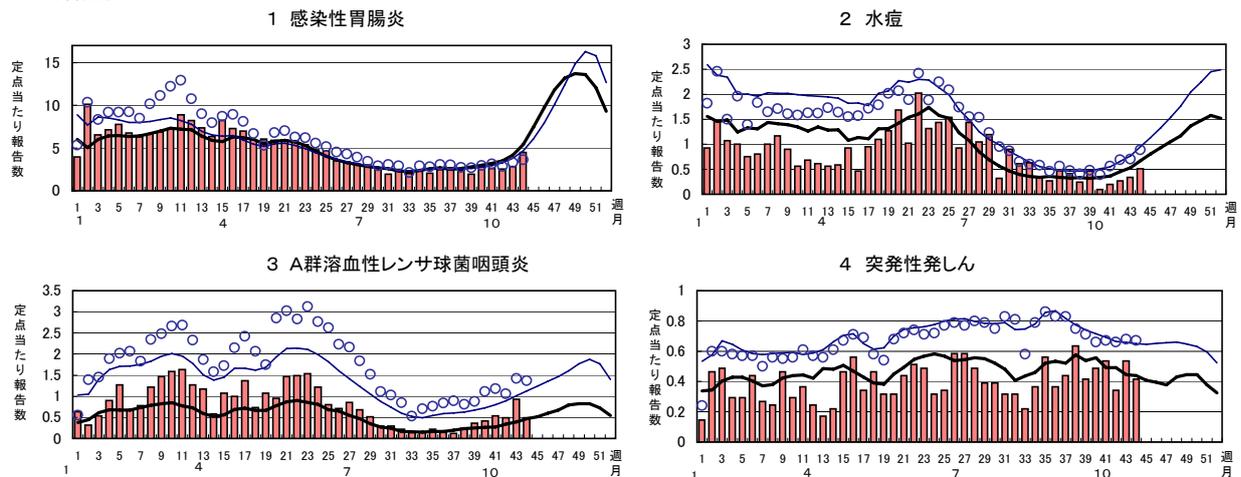


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

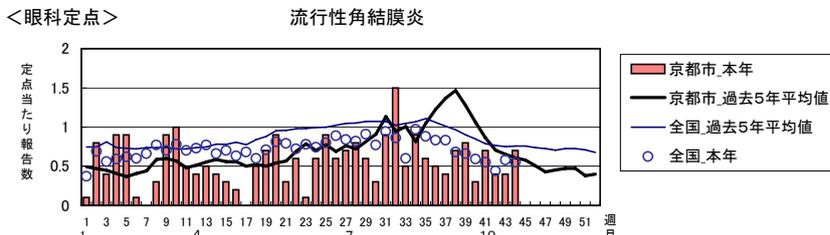


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



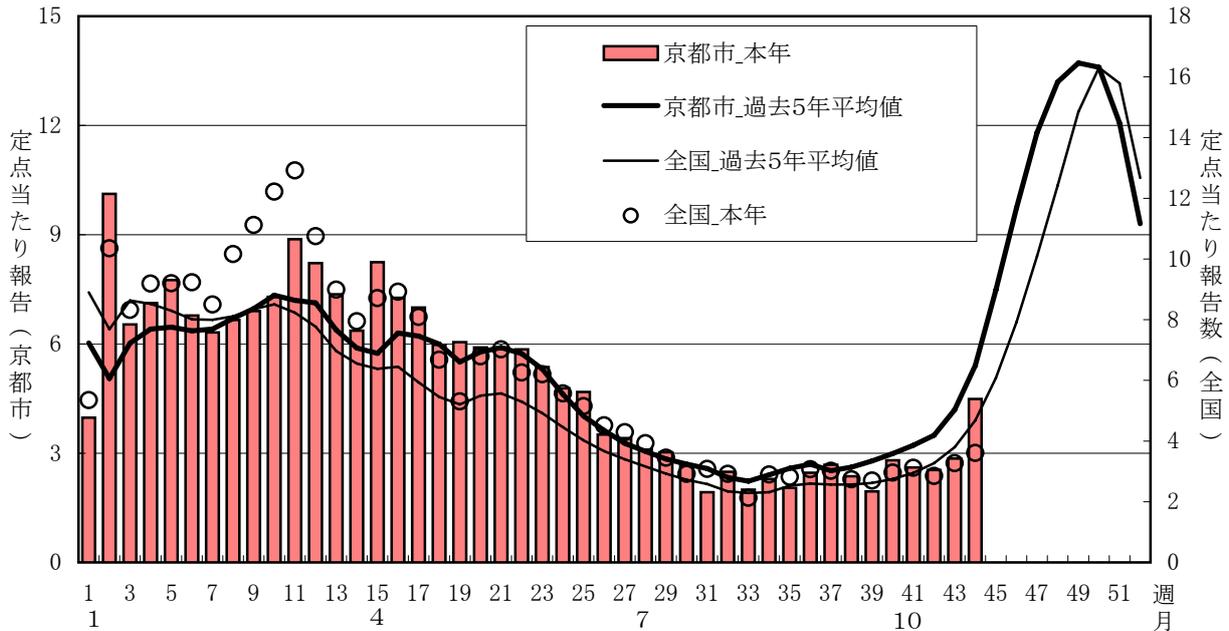
今週(第44週)のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数が4.49で、やや多くなっています。

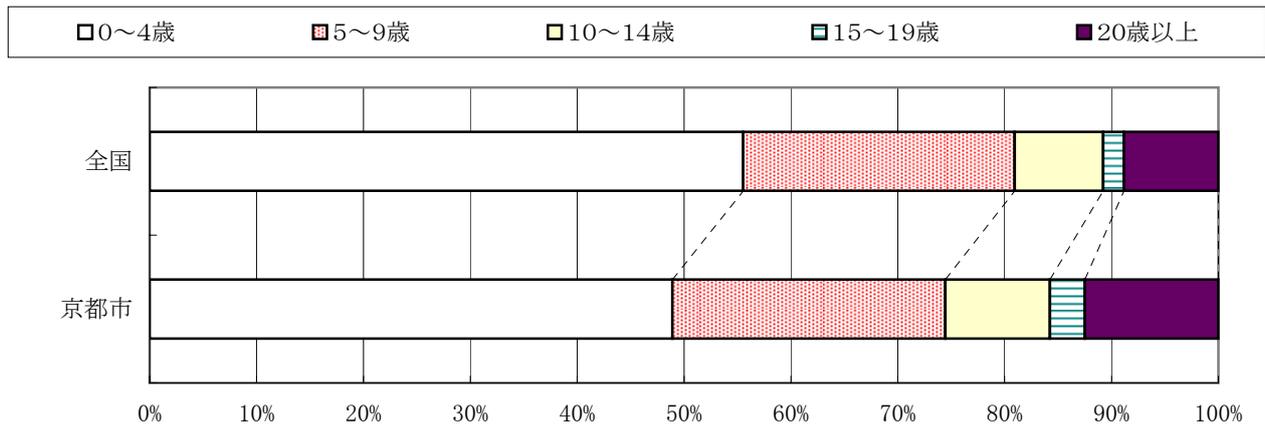
定点当たり報告数の推移をみると、第30週(7月21日)から第43週(10月26日)まで、増減を繰り返しながら横ばい傾向でしたが、今週は増加しています。

年齢階級(5歳階級)別割合をみると、本市、全国ともに0~4歳(本市 48.9%, 全国 55.7%)が最も多く、本市では全国に比べ、20歳以上の割合(本市 12.5%, 全国 8.9%)が多くなっています。また、本市の年齢階級(5歳階級)別割合で最も多い、0~4歳の内訳をみると、1歳が33.3%で、次いで2歳が21.1%となっています。

全国及び本市の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合(第44週)



0~4歳の年齢階級別割合(再掲)

